

InterSecVM/SG ブリッジ機能設定手順書

NEC システムソフトウェア事業部
2014 年 3 月 第 2 版

目次

1.	はじめに	2
2.	ブリッジ機能	2
3.	設定方法	2
3.1	準備	2
3.2	設定方法	4
4.	バックアップ・リストア	5
5.	制限事項	5

1. はじめに

本手順書は、InterSecVM/SG シリーズのブリッジ機能の設定手順書です。ブリッジ機能を利用される場合は本手順書を参考に設定を行ってください。

2. ブリッジ機能

一般にブリッジ機能とは、ブリッジインタフェースとして登録した2つ以上のネットワークインタフェースについて、あるネットワークインタフェースに届いたパケットを他のネットワークインタフェースから送出する機能のことです。本製品のブリッジ機能は一般のブリッジ機能に、ファイアウォールの機能を付加したものです。ブリッジインタフェースを通る通信についてもファイアウォールのルールに基づく処理が行われます。

本製品のブリッジ機能はブリッジインタフェースとして DMZ インタフェース(eth2)、と予備インタフェース(eth3)を利用します。

3. 設定方法

ブリッジ機能を利用するための設定方法について説明します。

3.1 準備

ブリッジ機能を利用するためには次の設定が必要です。それぞれの確認方法を参照して設定を行ってください。

- ・ かんたん設定ウィザードのネットワーク構成がブリッジ以外であること。
かんたん設定ウィザードでネットワーク構成をブリッジ以外にします。

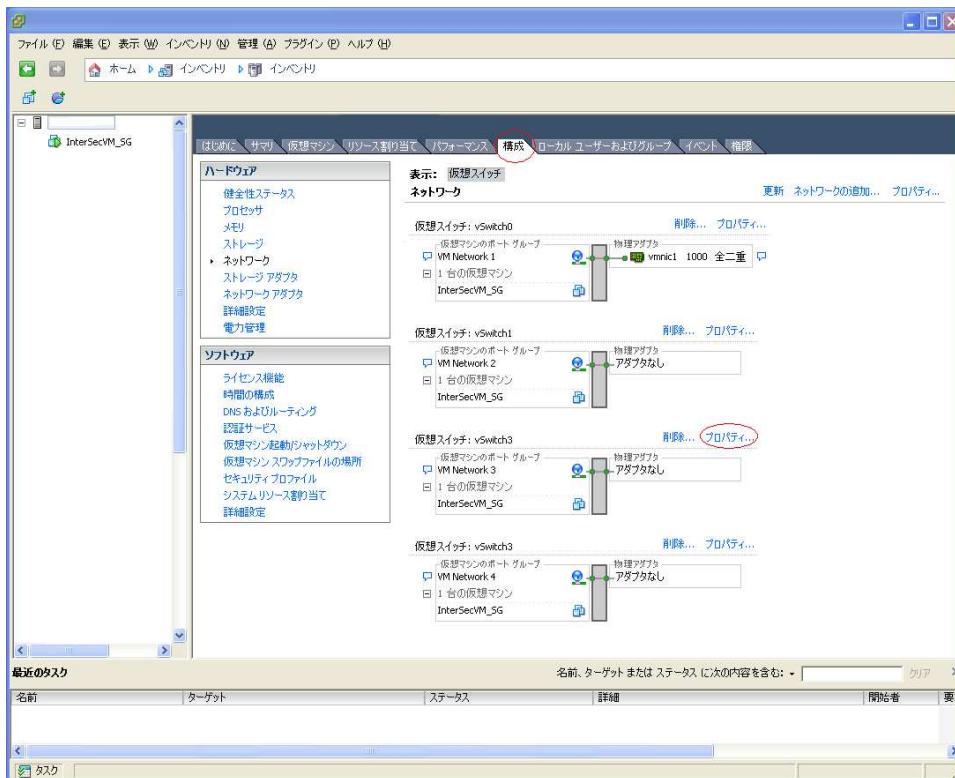
- ・ DMZ インタフェース(eth2)と予備インタフェース(eth3)に IP アドレスが割り当てられていないこと。
システムの基本設定から DMZ インタフェース(eth2)と予備インタフェース(eth3)に割り当てられている IP アドレスを削除します。

- ・ DMZ インタフェース(eth2)と予備インタフェース(eth3)に接続する仮想スイッチの無差別モードの有効であること。

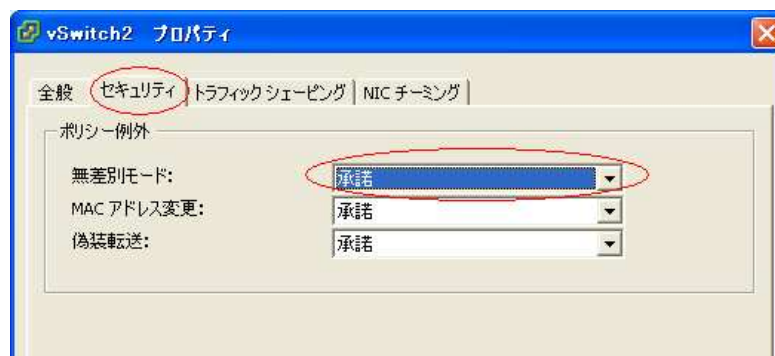
＜VMWare の無差別モードの設定＞

次の手順で vSphere Client から仮想スイッチの設定を変更します。

1. DMZ インタフェース(eth2)に接続されている仮想スイッチのプロパティをクリックします。



2. 仮想スイッチのプロパティ画面が表示されますので、編集ボタンをクリックします。
3. 表示されたダイアログのセキュリティタブをクリックします。
4. 無差別モードを承諾に変更し、OK ボタンをクリックします。



5. 閉じるボタンをクリックし、仮想スイッチのプロパティ画面を閉じます。
6. 予備インタフェースに対して1. ～5. を実施します。

<Hyper-V の無差別モードの設定>

1. 仮想マネージャで、設定する仮想マシンを選択し右クリック、設定を選択する。
2. ネットワークアダプタの上から3番目の「高度な選択」をクリック
3. 「Mac アドレスのスプーフィングを有効にする」をチェック。適用を選択する。
4. ネットワークアダプタの上から4番目に対しても、2.と3. の手順を実施する。

3.2 設定方法

ブリッジ機能の設定は、コマンドラインインタフェースから行います。vSphere Client もしくは Hyper-V のコンソールを用いるか、SSH 接続で設定を行ってください。各設定は root 権限で実行してください。設定方法について説明します。

- ・ ブリッジ機能を動作する

ブリッジ機能を動作させるには、次のコマンドを実行します。

```
service bridge start
```

- ・ ブリッジ機能を停止する

ブリッジ機能を停止するには次のコマンドを実行します。

```
service bridge stop
```

- ・ ブリッジ機能を強制的に停止する

エラーを無視してブリッジ機能を停止するには次のコマンドを実行します。

```
service bridge forcestop
```

- ・ ブリッジ機能を再起動する

ブリッジ機能を再起動するには次のコマンドを実行します。

```
service bridge restart
```

- ・ ブリッジ機能の動作状況を確認する

ブリッジ機能の動作状況を確認するには次のコマンドを実行します。

```
service bridge status
```

- ・ 本製品の起動時にブリッジ機能を有効または無効にする

本製品の起動時にブリッジ機能を有効にするには次のコマンドを実行します。

```
chkconfig bridge on
```

本製品の起動時にブリッジ機能を無効にするには次のコマンドを実行します。

```
chkconfig bridge off
```

デフォルトでは起動時にブリッジ機能は無効になっています。

- ・ ブリッジインタフェースに IP アドレスを設定する

ブリッジインタフェースに IP アドレスを設定する場合は、次の手順を実行します。

1. vi などのエディタで/etc/sysconfig/bridge.conf を作成します。
2. /etc/sysconfig/bridge.conf に以下の設定を記載します。

BRIDGE_IPADDR=設定したい IP アドレス

例: BRIDGE_IPADDR=192.168.1.1

3. ブリッジ機能を再起動するため、次のコマンドを実行します。

service bridge restart

4. バックアップ・リストア

バックアップ・リストア時の動作について説明します。

バックアップ・リストアされる設定は次のとおりです。

- ・ ブリッジ機能の設定ファイル/etc/sysconfig/bridge.conf
- ・ 本製品起動時にブリッジ機能を有効にするかどうかの設定(chkconfig の設定)・

ブリッジ機能を利用される場合、ファイアウォールのリストアを実行後、次の手順を実施してください。

1. 設定ファイルの確認(設定ファイルは消されない所以需要なら手動で消す)
2. service bridge restart(ブリッジ機能の起動状況はリストアされない)

5. 制限事項

ブリッジ機能と冗長化機能を併用することはできません。